

学会ハイライト

第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会

(2019年9月7・8日, 高知市文化プラザかるぽーと)

佐野 栄紀

高知大学医学部皮膚科学講座 教授

はじめに

2019年9月7・8日に、第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会を開催いたしました。故・小玉肇名誉教授が1997年に第49回を開催されて以来、22年ぶりの高知大学の主催になりました。会場の都合により例年の本学会からおよそ2カ月前倒しになりましたが、危惧されました台風も高知を避けて北上したため直接の影響はありませんでした。おかげさまで800人の参加者で盛会となり、ここに厚く御礼申し上げます。

学会テーマ

今回のテーマは「Real World Dermatology」といたしました(図1)。フェイクや仮想現実が横溢する現在において、足が地についた生身の皮膚科学を再確認したい。そして来たるべきAI技術による診療革命を目前とし、われわれ皮膚科医がいま一度本当の皮膚疾患の実態・本質を見つめ直したい、との意です。さらに、西部支部における若い皮膚科医の活躍を紹介するために「偏西風」をキーワードとして、新しい風が西から吹き日本中を席卷するのだと意気込みをみせたつもりです。おりしも西から台風が接近してきたのは余分な符合(?)でありました。

プログラム

特別講演は英国のJohn A. McGrath先生による

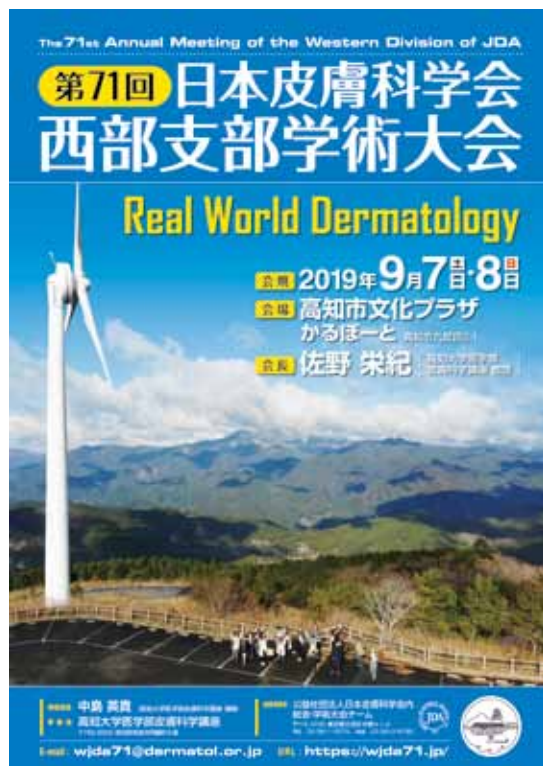


図1 第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会のポスター。高知県大豊町にてドローンで撮影(撮影は筆者)。医局員らは寒空の下で万歳をしています。



図2 門田隆将先生とともに集合写真



図3 懇親会で発表された6つのポスター賞

遺伝性皮膚疾患，韓国のDong-Youn Lee先生による爪生物学から始まりました．続いて大阪大学の岡田随象先生による遺伝統計学による病態解明とゲノム創薬の最新情報，2日目の午後に高知大学免疫難病センター長の仲哲治先生による，炎症に関与する血清バイオマーカー（LRG）の発見とその意義につきお話をいただきました．いずれも学術的にハイレベルで，real worldなサイエンスを実感できるものでありました．AIシンポジウムではヒューマノーム研究所・瀬々潤先生が，ゲノム情報を絡めたマルチオミクス解析をもとにした創薬

の可能性を話され，筆者は強い衝撃を受けました．機械学習・深層学習ですべて瞬時に解決できるのではない！このようなAI関連のイノベーションはゲノム情報など個々の医療情報が原資であるがゆえ，人権への意識や倫理感の欠落が疑われるような中国がはるかに先んじております．逆に日本人は規則を遵守し真面目すぎるため彼らに後塵を拝する危険性が高く，これを克服するためには政府主導で国力をかけた課題とすべきだと実感しました．若手偏西風シンポジウムでは12人の西部支部若手研究者の発表があり，将来が楽しみです．

山元修西部支部長に座長をお願いした病理シンポジウムでは、アメリカからお一人Jisun Cha先生にも参加いただき、計4人の中堅エキスパートに皮膚病理real worldを教えていただきました。

西部支部総会ならではの文化講演では、5年も前からアポイントを頂戴していた高知県出身の門田隆将先生に「南国土佐を後にして」の誕生秘話と、日中戦争のおり中支に展開した高知のいわゆる鯨部隊になつた野生ショウ「ハチ」のエピソードなど、心温まり日本人に勇気をもたすお話をいただきました(図2)。実は、当初60分でお願いしたところ、最短でも90分やらせてほしい、と門田先生から要望があり、90分にいたしました。先生のいわれた通り、最後は時間が短く感じられました。心打つ話に会場で涙する人も多かったと思います。

一般演題はポスター展示とあわせたプレゼンによって、じっくりみせていただけました(図3)。企業共催セミナーは20を数え、それぞれのテーマで最新のお話が聞けました。講演していただいた先生方には深謝申し上げます。

懇親会前の山根風仁氏・星野友紀氏のチェロとチェンバロのミニコンサートは古楽器を用いたバロックで、「秋の夜空に最初は判然としないが目が慣れれば満天に星々のきらめくような音楽」でありました。たいへん好評でした。

おわりに

日本皮膚科学会は総会と支部総会あわせて毎年5つの学術大会が催されます。筆者は、参加者としてふだん、「学会をこんなに多く開催する必要あるのかな、金太郎飴化しているのではないのかなあ」と感じることもあったのですが、実際自分



図4 教室員一同

の番になると異なります。学会フォーマットで型通りに進めるべき箇所と、独断でテーマを決め自由奔放にできる幸せな舞台、という感覚があります。学術大会という真面目な中にも、「これは受ける！ やろう」というエンターテイナー魂にも火が付きます。今回はその遊び心の1つとして、ドローン画像による高知の風景を楽しんでいただきました。高知の西の端にある幡多けんみん病院に出席中の一人医長・石元達士先生の手による背景音楽も効果的でした。感謝。

運営にあたり、中島英貴事務局長の驚異的な事務能力と教室員の協力(図4)、それと山田紀子さんをはじめとする日皮会学会チームのご尽力には感謝しかありません。皆様ありがとうございました。